別表（２－２）

カリキュラム編成表（授業科目等の概要）

令和4年度　工業専門課程　（建築・デザイン学科）

専門・一般		年次	学期	科目区分	分類 必修	分類 選択必修	分類 自由選択	授業科目名	授業科目概要	授業時数	単位数	授業方法 講義	授業方法 演習	授業方法 実験・実習・実技
	建築士専攻 建築CAD専攻	1	前期	専門		○		建築設計製図ＩＡ	製図道具の使い方、線の書き方を習得し、木造建築の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。	60	4	○		
		1	後期	専門		○		建築設計製図ＩＢ	配置図、平面図、断面図、立面図、矩計図の描き方を習得し、各自で条件にあったフリープランを作成する	60	4	○		
		1	前期	専門		○		建築計画ＩＡ	建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	60	4	○		
		1	後期	専門		○		建築計画ＩＢ	建築計画の基本となる住宅について学ぶ。また建築を設計するうえで基本となるスケール感覚を身につけ、人間が生活する空間を学ぶ。	30	2	○		
		1	前期	専門		○		建築構造力学ＩＡ	「建築力学の基礎概念である力・力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		建築構造力学ＩＢ	「建築力学の基礎概念である力・力のモーメント」「力のつり合いなどの静力学の基礎」について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		建築一般構造ＩＡ	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているか学ぶ。	30	2	○		
		1	後期	専門		○		建築一般構造ＩＢ	建築構造は、建物の成り立ちであり、建築物の各部と全体が、どのような材料を用いて、どのように形造られているか学ぶ。	30	2	○		
		1	前期	専門		○		建築材料ＩＡ	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料（鋼材）の性質について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		建築材料ＩＢ	建築材料のうち、構造材料である木材料、コンクリート材料、金属材料（鋼材）の性質について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		建築施工ＩＡ	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する	30	2	○		
		1	後期	専門		○		建築施工ＩＢ	建築施工の位置づけと建築生産の基本理念を理解する。建築工事を構成する各工種について、その内容と全体の施工計画について概要を理解する	30	2	○		
		1	前期	専門		○		建築法規ＩＡ	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る	30	2	○		
		1	後期	専門		○		建築法規ＩＢ	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る	30	2	○		
		1	前期	専門		○		Photoshop・illustratorＩＡ	Photoshopとillustratorの基本操作を修得し、Photoshop、illustratorを使用して作品を製作する	30	1		○	
		1	後期	専門		○		Photoshop・illustratorＩＢ	Photoshopとillustratorの基本操作を修得し、Photoshop、illustratorを使用して作品を製作する	30	1		○	
		2	前期	専門		○		建築計画ⅡＡ	公共機関のうち教育施設（幼稚園、小中学校等）や外部空間、自然環境と建築の関係等を学ぶ	30	2	○		
		2	前期	専門		○		建築構造力学ⅡＡ	「静定構造物の応力の求め方」「トラス構造の解析方法」について学ぶ	30	2	○		
		2	前期	専門		○		建築環境工学ⅡＡ	建築環境工学の基礎的な知識として、熱、光、空気、音の分野について学習し、知識の習得を行う	30	2	○		
		2	前期	専門		○		建築設備ⅡＡ	建築現場において使用される設備機器について基本的な内容を学ぶ	30	2	○		
		2	前期	専門		○		建築法規ⅡＡ	建築物の設計、施工に必要不可欠である建築基準法と関係法令について条文の主旨、内容の理解を図る	30	2	○		
		2	前期	専門		○		建築設計製図ⅡＡ	配置図、平面図、断面図、立面図、矩計図の描き方を習得し、各自で条件にあったフリープランを作成する	60	2		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（製図）	1級建築士の製図課題レベルのエスキース・製図能力の習得	60	2		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（計画）	1級建築士の学科試験Ⅰ（計画）対策	30	1		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（法規）	1級建築士の学科試験Ⅲ（法規）対策	30	1		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（構造）	1級建築士の学科試験Ⅳ（構造）対策	30	1		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（施工）	1級建築士の学科試験Ⅴ（施工）対策	30	1		○	
		2	後期	専門		○		建築士対策ⅡＡ（環境設備）	1級建築士の学科試験Ⅱ（環境設備）対策	60	2		○	
	CADの知識習得	1	前期	専門	○			JWCADＩＡ	建築設計の基本的な考え方について学ぶ。JWCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得	60	2		○	
		1	後期	専門	○			JWCADＩＢ	建築設計の基本的な考え方について学ぶ。JWCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得	60	2		○	
		2	前期	専門	○			AutoCADⅡＡ	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得	60	2		○	
		2	後期	専門	○			AutoCADⅡＢ	AutoCADの基本操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得	60	2		○	

専門	建築士専攻科目	1	前期	専門		○		建築図学ＩＡ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物と参照しながら習得する。	30	1		○	
		1	後期	専門		○		建築図学ＩＢ	自分の意図した空間・形態を的確に表現する。手法を実際の建築物と参照しながら習得する。	30	1		○	
		2	前期	専門		○		専攻ゼミⅡＡ	計画、設計、作品作りをゼミ形式にて実施する。本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	60	2		○	
		2	後期	専門		○		専攻ゼミⅡＢ	計画、設計、作品作りをゼミ形式にて実施する。本校における学びの集大成としてその成果をまとめる。	60	2		○	
	建築CAD専攻科目	1	後期	専門		○		BIMＩＡ	BIMについての理解と関係ソフトの基礎的知識及び操作技術の向上を図る	60	2		○	
		1	前期	専門		○		3DCADＩＡ	建築設計や建築生産に必要な三次元図面の制作技術を通して、多角的な設計技術などを学ぶ	30	1		○	
		2	前期	専門		○		BIMⅡＡ	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで技術の向上を図る	60	2		○	
		2	後期	専門		○		BIMⅡＢ	BIM手法を駆使し、作品制作や競技設計へ挑戦することで技術の向上を図る	60	2		○	
	実務研修による現場能力の習得	1	後期	専門	○			インターンシップＩＡ	机上で学んだことを現場で実践する	45	1			○
		2	後期	専門	○			インターンシップⅡＡ	机上で学んだことを現場で実践する	45	1			○
	測量士専攻科目	1	前期	専門		○		測量に関する法規・国際条約ＩＡ	「測量法」「測量法施行令」「測量法施行規則」に関する知識、基本測量、公共測量、基本測量及び公共測量以外の測量について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		測量に関する数学ＩＡ	関数とグラフ、指数と対数、三角関数、ベクトル、微分法、積分法、行列について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		測量学概論ＩＡ	測量・地図発達の歴史、わが国の測量体系、測量の基準、楕円体測地学の基礎、地球の物理と測量及び最新の測量技術を学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		三角測量ＩＡ	測定器械、選点、造標、埋標、水平角・鉛直角、距離の測定、平面直角座標計算、測量の成果について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		水準測量ＩＡ	水準測量の概要および作業計画・準備、測定機器、観測、誤差、計算と成果表等の整理、作業管理について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		地形測量ＩＡ	一般理論、細部図根点測量、細部測量、測量原図の調整、数値地形測量等について学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		地図編集ＩＡ	地図の分類、地図投影法、地形図読図、基図、編集における取捨選択、総描、転位、GISの概念等について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		測量に関する情報処理ＩＡ	コンピュータシステム、ソフトウェア・ハードウェアの基礎、測量計算・地図情報処理などコンピュータによる解析作業を学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		多角測量ＩＡ	測定器械（ﾄｰﾀﾙｽﾃｰｼｮﾝ及び汎地球測位航法衛星システム（GNSS）を含む）、選点、造標、埋標、水平角・鉛直角・天文方位角の観測、距離の測定、平面直角座標計算、三角・多角網平均計算（観測方程式法を含む）、測量の成果表について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		汎地球測位システム測量ＩＡ	衛星測位システムの概念、GNSS測量の観測方式、観測法と解析方法について修得する。	30	2	○		
		1	後期	専門		○		写真測量ＩＡ	一般理論、航空カメラ、図化機、標定点測量、空中写真測量、リモートセンシング、数値図化等について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		応用測量ＩＡ	路線測量計画概論、中心線測量、曲線設置、現況測量、用地測量、縦横断測量、工事測量土量計算、河川測量計画概論、距離標の測量、河川縦横断測量、深浅測量、汀線測量、流速流量の測定等について学ぶ	30	2	○		
		1	後期	専門		○		地理情報システムＩＡ	インターネット活用手段、属性データ作成のエクセル利用、GISソフトの操作方法とおよび利用する地図データについて投影法や座標系を理解させる。総合演習でGISソフトを使いこなす技術を修得する	30	2	○		
		1	前期	専門		○		土木一般ＩＡ	施工計画のための調査と環境アセスメント、設計と積算、施工と施工管理、品質管理、資材管理、労務管理など、土木施工に関する実践的技術を修得する。	30	2	○		
		1	前期	専門		○		専門土木ＩＡ	安全管理、工程管理、土工機械、掘削施工、運搬施工、盛土と締固め、基礎工、擁壁、トンネル、を内容とする講義により、土木施工に関する実践的技術を修得する。	30	2	○		
		1	前期	専門		○		土木施工法規ＩＡ	建設業に関する「労働基準法」「労働安全衛生法」「建設業法」を軸に、土木施工管理技士に関する土木法規を学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		共通工学ＩＡ	契約・設計・電気・測量においての基礎的な知識を学ぶ	30	2	○		
		1	前期	専門		○		施工管理法ＩＡ	工程管理」「安全管理」「品質管理」「原価管理」などの各種工事と材料、構造等を通して「施工管理」のポイントを学ぶ	30	2	○		
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（法規・国際条約）	測量士試験に向けて法規・国際条約についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（多角測量）	測量士試験に向けて多角測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（GNSS測量）	測量士試験に向けてGNSS測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（水準測量）	測量士試験に向けて水準測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（地形測量）	測量士試験に向けて地形測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（写真測量）	測量士試験に向けて写真測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（地図編集）	測量士試験に向けて地図編集についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（応用測量）	測量士試験に向けて応用測量についての対策を行う	30	1		○	
		2	前期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（地理情報システム）	測量士試験に向けて地理情報システムについての対策を行う	30	1		○	
		2	後期	専門		○		測量士試験対策ⅡＡ（総合）	測量士試験に向けて総合的な対策を行う	30	1		○	
		2	後期	専門		○		測量士試験対策ⅡＢ（総合）	測量士試験に向けて総合的な対策を行う	30	1		○	
		1	後期	専門		○		土木施工対策ＩＡ（土木工学等）	土木施工管理技士試験に向けて土木工学等の対策を行う	30	1		○	
		1	後期	専門		○		土木施工対策ＩＡ（施工管理法）	測量士試験に向けて施工管理法についての対策を行う	30	1		○	
		1	後期	専門		○		土木施工対策ＩＡ（法規）	測量士試験に向けて土木法規についての対策を行う	30	1		○	

	地域連携による課題解決力習得	1	前期	専門	○			課題解決学習ⅠA	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う	30	1		○	
		1	後期	専門	○			課題解決学習ⅠB	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う	30	1		○	
		2	前期	専門	○			課題解決学習ⅡA	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う	30	1		○	
		2	後期	専門	○			課題解決学習ⅡB	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う	30	1		○	
一般	一般科目	1	前期	一般			○	表現力ⅠA	コミュニケーション授業や演劇を学び、自己表現力や社会性を身に付ける	30	1		○	
		1	後期	一般			○	NIBⅠA	新聞を通し、地域の知識を学ぶと共に、読解力、思考力、プレゼン力、グループ討議力や、社会性、創造性、国際性を身に付ける。	30	1		○	
		1	前期	一般			○	キャリア支援ⅠA	就職対策や早期退職防止の為にSPIや職業観について学ぶ	30	1		○	
		1	後期	一般			○	キャリア支援ⅠB	就職対策や早期退職防止の為にSPIや職業観について学ぶ	30	1		○	
		2	前期	一般			○	キャリア支援ⅡA	就職対策や早期退職防止の為にSPIや職業観について学ぶ	30	1		○	
		2	後期	一般			○	キャリア支援ⅡB	就職対策や早期退職防止の為にSPIや職業観について学ぶ	30	1		○	
		1	前期	一般			○	データマーケティングⅠA	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータ の取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身につけ、データマーケターとしての基礎的素養を深める。	30	1		○	
		1	後期	一般			○	データマーケティングⅠB	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータ の取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身につけ、データマーケターとしての基礎的素養を深める。	30	1		○	
		2	前期	一般			○	データマーケティングⅡA	POSデータやドルフィンアイなどのビックデータを生かし、マーケティング観点からの課題解決方法について学ぶ	30	1		○	
	コンピュータ知識	2	前期	一般	○			ICT演習ⅡA	企業において必須技能であるエクセル技術の演習を行う。日常業務に必要な表計算・グラフ作成・データベースの技術を身につける。	30	1		○	
		2	後期	一般	○			ICT演習ⅡB	企業において必須技能であるエクセル技術の演習を行う。日常業務に必要な表計算・グラフ作成・データベースの技術を身につける。	30	1		○	
		2	前期	一般	○			ICT活用ⅡA	VR技術を用いたプレゼンテーション技法の向上を図る	30	1		○	
		2	後期	一般	○			ICT活用ⅡB	VR技術を用いたプレゼンテーション技法の向上を図る	30	1		○	
					合計			91 科目		3210 単位時間			146	単位）

卒業要件及び履修方法
卒業要件：８５単位取得　GPA　２．０以上　　必修科目を取得していること 選択必修科目：【建築士専攻】「建築設計製図ⅠA」「建築設計製図ⅠB」「建築計画ⅠA」「建築計画ⅠB」「建築構造力学ⅠA」「建築構造力学ⅠB」「建築一般構造ⅠA」「建築一般構造ⅠB」「建築材料ⅠA」「建築材料ⅠB」「建築施工ⅠA」「建築施工ⅠB」「建築法規ⅠA」「建築法規ⅠB」「Photoshop・illustratorⅠA」「Photoshop・illustratorⅠB」「建築計画ⅡA」「建築構造力学ⅡA」「建築環境工学ⅡA」「建築設備ⅡA」「建築法規ⅡA」「建築設計製図ⅡA」「建築士対策ⅡA(製図)」「建築士対策ⅡA(計画)」「建築士対策ⅡA(法規)」「建築士対策ⅡA(構造)」「建築士対策ⅡA(施工)」「建築士対策ⅡA(環境設備)」「建築図学ⅠA」「建築図学ⅠB」「専攻ゼミⅡA」「専攻ゼミⅡA」 または【建築CAD専攻】「建築設計製図ⅠA」「建築設計製図ⅠB」「建築計画ⅠA」「建築計画ⅠB」「建築構造力学ⅠA」「建築構造力学ⅠB」「建築一般構造ⅠA」「建築一般構造ⅠB」「建築材料ⅠA」「建築材料ⅠB」「建築施工ⅠA」「建築施工ⅠB」「建築法規ⅠA」「建築法規ⅠB」「Photoshop・illustratorⅠA」「Photoshop・illustratorⅠB」「建築計画ⅡA」「建築構造力学ⅡA」「建築環境工学ⅡA」「建築設備ⅡA」「建築法規ⅡA」「建築設計製図ⅡA」「建築士対策ⅡA(製図)」「建築士対策ⅡA(計画)」「建築士対策ⅡA(法規)」「建築士対策ⅡA(構造)」「建築士対策ⅡA(施工)」「建築士対策ⅡA(環境設備)」「３DCADⅠA」「BIMⅠA」「BIMⅡA」「BIMⅡB」 または【測量士専攻】 「測量に関する法規・国際条約ⅠA」「測量に関する数学ⅠA」「測量学概論ⅠA」「三角測量ⅠA」「水準測量ⅠA」「地形測量ⅠA」「地図編集ⅠA」「測量に関する情報処理ⅠA」「写真測量ⅠA」「応用測量ⅠA」「地理情報システムⅠA」「土木一般ⅠA」「専門土木ⅠA」「土木施工法規ⅠA」「共通工学ⅠA」「施工管理法ⅠA」「測量士試験対策ⅡA（法規・国際条約）」「測量士試験対策ⅡA（多角測量）」「測量士試験対策ⅡA（GNSS測量）」「測量士試験対策ⅡA（水準測量）」「測量士試験対策ⅡA（地形測量）」「測量士試験対策ⅡA（写真測量）」「測量士試験対策ⅡA（地図編集）」「測量士試験対策ⅡA（応用測量）」「測量士試験対策ⅡA（地理情報システム）」「測量士試験対策ⅡA（総合）」「測量士試験対策ⅡB（総合）」「土木施工対策ⅠA（土木工学等）」「土木施工対策ⅠA（施工管理法）」「土木施工対策ⅠA（法規）」のいずれかを取得していることとする。

授業期間等		
１学年の学期区分	2	期
１学期の授業期間	15	週

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築設計製図ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	4
学習目的	二級建築士設計製図の範囲を学び、基本的な作図ができるようになる。								
授業内容	製図道具の使い方、線の書き方を習得し、建築の一般図の種類と表現方法・内容理解を目指す。								
学習目標	製図道具の使い方を理解し、使用することが出来るようになる。 各構造の一般図の種類と表現方法・内容が説明できる。 製図の基本に則して配置図及び平面図を作図することができる。 製図の基本に則して断面図及び立面図を作図することができる。 製図の基本に則して矩計図を作図することができる。								
使用テキスト	令和4年度版　2級建築士試験　設計製図テキスト								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-2　製図を始める前に	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
2		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	木造軸組み工法について	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
4		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	2-1-1～2-2-1　木造の専用住宅、併用住宅	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
6		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-3-1～2-3-2　木造の要求図書～配置図、各階平面図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
8		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-3-3　木造の立面図の描き方 2-3-4　木造の断面図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
10		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-3-5　木造の2階床伏図兼1階小屋伏図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
12		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-3-6　木造の部分詳細図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
14		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	二級建築士過去標準回答例とレース（木造）	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
16		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
17	3-1-1～3-3-2　鉄筋コンクリート造の図面の構成作図～要求図書	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと

18	配置図、各階平面図の描き方	【事後】	課題は次の授業まで終わせること
19	3-3-3　鉄筋コンクリート造の立面図の描き方 3-3-4　鉄筋コンクリート造の断面図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
20		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
21	3-3-5　鉄筋コンクリート造の部分詳細図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
22		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
23	4-1-1～4-2-2　鉄骨造の純ラーメン構造、配置図各階平面図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
24		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
25	4-2-3　鉄骨造の立面図の描き方 4-2-4　鉄骨造の断面図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
26		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
27	4-2-5　鉄骨造の矩計図の描き方	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
28		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
29	建築模型製作	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
30		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築設計製図ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	4
学習目的	二級建築士設計製図に対応できる力を身に着ける。								
授業内容	二級建築士設計製図の範囲を実践する。								
学習目標	二級建築士設計製図試験の傾向と対策を学ぶ。 課題の読み取り、エスキス、作図、要点記述を時間管理できるようになる。								
使用テキスト	2級建築士　新体系テキスト　設計製図　TAC、前期テキスト ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	2級建築士設計製図試験概要・時間管理等・作図練習	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
2		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	課題1　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
4		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	課題1　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
6		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	課題2　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
8		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	課題2　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
10		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	課題3　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
12		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	課題3　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
14		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	課題4　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
16		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
17	課題4　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
18		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

19	課題5　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
20		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
21	課題5　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
22		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
23	課題6　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
24		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
25	課題6　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
26		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
27	課題7　読み取り・エスキスプロセス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
28		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
29	課題7　作図・要点記述	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
30		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自らエ夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築計画ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	4
学習目的	二級建築士建築計画の範囲を学び、建築計画の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築計画を学ぶ。特に計画原論（環境工学）、建築設備、計画各論（一部）。								
学習目標	二級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト計画、コンパクト建築設計資料集成、建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のため ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-1　気候・空気	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
2		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-2　熱	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
4		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	1-3　光	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
6		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	1-4　音	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
8		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	1-5　色彩 1-6　計画原論　用語・単位	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
10		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
12		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-1　空調機械設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
14		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	2-2　給水設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
16		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
17	2-3　排水・衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと

18	2-3 排水・衛生設備	【事後】	課題は次の授業まで終わせること
19	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
20		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
21	2-4 電気・照明設備①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
22		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
23	2-4 電気・照明設備②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
24		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
25	2-5 消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
26		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
27	2-6 環境・省エネルギー 2-7 建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
28		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
29	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
30		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課 題 20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか ④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその 50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築計画ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	基本的な建築計画が理解出来る								
授業内容	2級建築士の建築計画を学ぶ。特に計画各論、建築史。								
学習目標	2級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	２級建築士学科　新体系テキスト計画、カラー版図説　建築の歴史　西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成、建築ガイダンス初めて建築を学ぶ人のため ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	3-1　住宅建築	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	3-2　商業施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	3-3　文化施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	3-4　教育施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	3・5　医療・福祉施設	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	3-6　各部計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	3-6　各部計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	3-7　建築生産	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	3-8　都市計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	3-9　計画各論　用語 4　　建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	4　　建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築構造力学ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の構造力学を学ぶ。特に力のつり合い、反力、応力（部材に生じる力）、トラス等。								
学習目標	二級建築士の構造の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	0　基礎数学テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-1　力のつり合い 1-1-1　力 1-1-2　モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-1-3　力の合成と分解 1-1-4　力のつり合い	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	1-1-5　構造物に働く力（過重） 1-2-1　構造物のモデル化	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	1-2　反力 1-2-2　支点と反力 1-2-3　構造物の種類	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	1-2-4　反力の求め方 1-2-4-1　基本	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	1-2-4-3　鉛直反力の公式	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	片持ち梁の反力　トラスの反力	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	静定ラーメンの反力	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	1-3-1　応力の種類 1-3-2　応力の求め方　基本	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	1-3-2　応力の求め方　応用	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	1-3-3　応力図	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築構造力学ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、基本的な構造力学が理解出来るようになる。								
授業内容	二級建築士の構造力学を学ぶ。特に座屈、応力度等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	前期の復習	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-4 トラス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-4-2-1　切断法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	1-4-2-2　図解法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	1-5-1　断面一次モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	1-5-2　断面二次モーメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	1-5-3～1-5-5　断面係数～剛度と剛比	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	1-6　座屈	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	1-7-1～1-7-3　応力度の種類～せん断応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	1-7-4　曲げ応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	1-7-5　許容応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	1-7-6、1-7-7 部材の変形、構造力学で用いる単位・用語	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築一般構造ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（建築一般構造）の範囲を学び、建築一般構造の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築一般構造を学ぶ。特に荷重・外力、構造計画、地盤・基礎、木造等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造、 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	2-1　荷重・外力①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	2-1　荷重・外力②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-1　荷重・外力③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	2-2　構造計画①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-2　構造計画②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-2　構造計画③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-2-2　その他の構造計画 2-2-3　代表的な構造種別	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	2-3　地盤・基礎①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-3　地盤・基礎②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	2-4　木造①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-4　木造②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-4　木造③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築一般構造ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（一般構造）の範囲を学び、一般構造の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の一般構造を学ぶ。特に鉄筋コンクリート造、壁構造、鉄骨造等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	2-5　鉄筋コンクリート造①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	2-5　鉄筋コンクリート造②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-5　鉄筋コンクリート造③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	2-5　鉄筋コンクリート造④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	2-6　壁構造①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-6　壁構造②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-7　鉄骨造①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-7　鉄骨造②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	2-7　鉄骨造③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-7　鉄骨造④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-8　その他の構造等①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-8　その他の構造等②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築材料ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（建築材料）の範囲を学び、建築材料の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築材料を学ぶ。特に木材、木質系材料、鉄筋コンクリート、鋼材等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	2-4-1　木材①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	2-4-1　木材②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-4-2　木質系材料①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	2-4-2　木質系材料②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-5-1　鉄筋 2-5-2-1　セメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-5-2-2　骨材 2-5-2-3　各種強度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-5-2-4　ヤング係数（弾性係数） 2-5-2-5　その他の性質	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-5-2-6　ワーカビリティ（施工軟度） 2-5-2-7　コンクリートの調合 2-5-2-8　混和剤	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-7-1　鋼材①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	2-7-1　鋼材②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-7-1　鋼材③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-7-1　鋼材④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築材料ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（建築材料）の範囲を学び、建築材料の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築材料を学ぶ。 特に塗装、ガラス、接着剤、左官材料、タイル、石材、断熱材、ボード類、シーリング材、屋根葺材等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	3-1-1　塗装①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	3-1-1　塗装②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	3-1-2　ガラス①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	3-1-2　ガラス②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	3-1-3　接着剤①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	3-1-3　接着剤②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	3-1-4　左官材料 3-1-5　タイル	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	3-1-6　石材 3-1-7　断熱材	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	3-1-8　ﾎﾞｰﾄﾞ類①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	3-1-8　ﾎﾞｰﾄﾞ類②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	3-1-9　ｼｰﾘﾝｸﾞ材 3-1-10　屋根葺材	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	3-1-11　その他	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築施工ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築施工の範囲を学び、建築施工の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築施工を学ぶ。特に契約・計画・管理、各部工事等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト施工 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-1　契約	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-2　施工計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-3　管理計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	2-1　仮説工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-2　地盤・土工事・基礎	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-3　鉄筋工事 2-4　型枠工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-5　コンクリート工事①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	2-5　コンクリート工事②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-6　鉄骨工事①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	2-6　鉄骨工事②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-7　コンクリートブロック工事 2-8　ALCパネル工事 2-9　押出成形セメント板工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-10　木工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築施工ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築構造（施工）の範囲を学び、建築施工の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築施工を学ぶ。特に各部工事等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト施工 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	2-11　防水工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	2-12　屋根工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-13　左官工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	2-14　タイル・石工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-15　塗装工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-16　建具・ガラス工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-17　内装工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-18　改修工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-19　設備工事	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	3-1　施工機械・器具	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	3-2　測量	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	3-3　積算・見積	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築法規ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト法規、建築関係法令集法令編、 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-1　用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-2　確認申請・建築手続	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-3　面積・高さ等の算定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	1-4　一般構造	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	1-5　耐火・防火	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	1-6　防火地域・準防火地域	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	1-7　防火区画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	1-8　避難施設等	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	1-9　内装制限①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	1-9　内装制限②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	1-10　構造計算・構造強度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	1-11　敷地等と道路	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築法規ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	二級建築士建築法規の範囲を学び、建築法規の基本を理解する。								
授業内容	二級建築士の建築法規を学ぶ。特に建築基準法、関係法令等。								
学習目標	二級建築士の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2級建築士学科　新体系テキスト法規 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-12　用途地域	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-13　建蔽率	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	1-14　容積率	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	1-15　高さ制限	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	1-16　日陰規制	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	1-17　雑則・その他の規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-1　建築士法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-2　バリアフリー法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-3　耐震改修促進法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	2-4　品確法・瑕疵担保履行法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-5　都市計画法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-6　その他の関係法令	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	Photoshop・illustrator Ⅰ A							学期	前　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	Photoshop及びIllustratorの基本操作と基礎知識の習得								
授業内容	前期はillustratorを中心にアドビ認定アソシエイト資格取得相当の内容、illustratorを活用した課題制作								
学習目標	Photoshop及びIllustratorの役割を理解し、illustratorの基礎知識を理解、基本操作ができるようになること								
使用テキスト	ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策、ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策								

週数	授業計画
1	導入、・Photoshopとillustrator概要、基本操作
2	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題①
3	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題②
4	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題③
5	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題④
6	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題⑤
7	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題①
8	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題②
9	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題③
10	Illustratorアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題④
11	illustrator練習課題（ロゴデザイン　トレース）
12	illustrator練習課題（チラシデザイン　トレース）
13	Illustrator活用課題制作1
14	Illustrator活用課題制作2
15	Illustrator活用課題発表、講評、フィードバック

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　50 %	最終課題の出来栄えと発表内容で評価、学生らからも評価を募り評価に反映する。
	2．授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。
	3．テストそ　20 %	授業内の課題成果で評価。
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	Photoshop・illustrator Ⅰ B							学期	後　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	Photoshop及びIllustratorの基本操作と基礎知識の習得、Adobe認定プロフェッショナルに相当する知識・スキル習得								
授業内容	後期はPhotoshopを中心にアドビ認定アソシエイト資格取得相当の内容、illustratorとPhotoshopを活用した課題制作								
学習目標	Photoshopの基礎知識を理解、基本操作ができるようになること、illustratorとPhotoshopの連携を理解する								
使用テキスト	ACA アドビ認定アソシエイト対応 Photoshop CC 試験対策、ACA アドビ認定アソシエイト対応 Illustrator CC 試験対策								

週数	授業計画
1	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題①
2	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題②
3	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題③
4	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題④
5	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実技問題⑤
6	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題①
7	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題②
8	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題③
9	Photoshopアドビ認定プロフェッショナル試験対策　受験プログラム実践問題④
10	Photoshop練習課題①　説明と制作、回答
11	Photoshop練習課題②　説明と制作、回答
12	Photoshopとillustratorの連携　画像配置とその機能特性
13	IllustratorとPhotoshopを活用した建築プレゼンパネル製作①
14	IllustratorとPhotoshopを活用した建築プレゼンパネル製作②
15	建築プレゼンパネル発表、講評、フィードバック

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　50 %	最終課題の出来栄えと発表内容で評価、学生らからも評価を募り評価に反映する。
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。
	3. テストそ　20 %	授業内の課題成果で評価。
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築計画ⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	2
学習目的	一級建築士建築計画と二級建築施工管理技士補の範囲を学ぶ。								
授業内容	一級建築士の建築計画と二級建築施工管理技士補を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の建築計画と二級建築施工管理技士補の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	前年度テキスト、建築施工管理技士要点テキスト2級、建築施工管理技士即戦問題集2級 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1 建築士の職責・業務	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	2 建築物の環境共生	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	3 マネジメント	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	4-2 集合住宅	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	5 公共建築	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	5-8 公共建築の実例	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	4-3　劇場	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	7-2　面積算定・寸法設計の概要	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	確認テスト④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	10　積算 8　都市計画	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	9　建築史	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト⑤	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ 50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築構造力学ⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	一級建築士建築構造（力学）の範囲を学び、構造力学の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の構造力学を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の構造の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年１級建築士学科新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-1　力のつり合い 1-2　安定・静定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-3　静定構造物の反力	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-1　応力 2-2　静定ばりの応力計算	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	2-3　静定ラーメンの応力計算	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-4　静定3ヒンジラーメンの応力計算	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-5　静定トラス	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	3-1　部材の性質	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	3-2　応力度と許容応力度	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	3-3　部材の変形（たわみとたわみ角）	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	3-4　座屈 確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	4-1　不静定構造物の応力と変形	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	4-2　耐震の基本理念	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト④	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその他　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築環境工学ⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必修	単位数	2
学習目的	一級建築士建築環境設備の範囲を学び、環境設備の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の環境設備を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の環境設備の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年１級建築士学科新体系テキスト環境設備 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1　室内環境	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1　室内環境	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2　換気	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	2　換気	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	3　伝熱・結露	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	3　伝熱・結露	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	4　日照・日射	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	4　日照・日射	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	5　採光・照明	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	5　採光・照明	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	6　色彩	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	6　色彩	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	7　音響	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	7　音響	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築設備ⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	2
学習目的	一級建築士建築環境設備の範囲を学び、主に設備の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の環境設備を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の環境設備の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年１級建築士学科新体系テキスト環境設備 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	8　建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	8　建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	8　建築設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	9　空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	9　空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	9　空気調和設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	10　給排水衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	10　給排水衛生設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	11　照明設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	11　照明設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	12　電気・輸送設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	12　電気・輸送設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	13　消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	13　消火・防災設備	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその 50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築法規ⅡB							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	講義	履修分類	選択必	単位数	2
学習目的	一級建築士建築法規の範囲を学び、法規の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の法規を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の法規の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年1級建築士学科新体系テキスト法規 総合資格学院編　建設関係法令集　法令編								

週数	授業計画	事前・事後の学習	
1	1-1　建築士法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
2	1-2　建設業法	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
3	2-1　建築基準法　用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
4	2-1　建築基準法　用語の定義	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
5	確認テスト①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
6	2-2　確認申請等の手続き規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
7	2-2　確認申請等の手続き規定	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
8	2-3　防火関係規定①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
9	2-3　防火関係規定②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
10	確認テスト②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
11	2-4　避難関係規定①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
12	2-4　避難関係規定②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
13	2-5　内装制限等①	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
14	2-5　内装制限等②	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること
15	確認テスト③	【事前】	テキストの該当範囲を読んでおくこと
		【事後】	課題は次の授業まで終わせること

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストその　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築設計製図ⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	2
学習目的	一級建築士設計製図に対応できる力を身に着ける。								
授業内容	一級建築士設計製図の範囲を実践する。								
学習目標	一級建築士設計製図試験の傾向と対策を学ぶ。 課題の読み取り、エスキス、作図、要点記述を時間管理できるようになる。								
使用テキスト	1級建築士　新体系テキスト　設計製図　TAC ※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	1級建築士設計製図試験概要・時間管理等・作図練習
2	
3	読み取り 作図トレーニング
4	
5	エスキス① 作図トレーニング
6	
7	エスキス② 作図トレーニング
8	
9	エスキス③ 作図トレーニング
10	
11	エスキス④ 作図トレーニング
12	
13	要点記述① 作図トレーニング
14	
15	要点記述② 作図トレーニング
16	
17	要点記述③ 作図トレーニング
18	
19	課題1　読み取り・エスキスプロセス
20	
21	課題1　作図・要点記述
22	
23	課題2　読み取り・エスキスプロセス
24	
25	課題2　作図・要点記述
26	
27	課題3　読み取り・エスキスプロセス
28	
29	課題3　作図・要点記述
30	

評価項目/割合		評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA（製図）							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	2
学習目的	一級建築士設計製図に対応できる力を身に着ける。								
授業内容	一級建築士設計製図の範囲を実践する。								
学習目標	一級建築士設計製図試験の傾向と対策を学ぶ。 課題の読み取り、エスキス、作図、要点記述を時間管理できるようになる。								
使用テキスト	1級建築士　新体系テキスト　設計製図　TAC ※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	過去問解説、過去問作図
2	
3	課題1　読み取り・エスキスプロセス
4	
5	課題1　作図・要点記述
6	
7	課題2　読み取り・エスキスプロセス
8	
9	課題2　作図・要点記述
10	
11	課題3　読み取り・エスキスプロセス
12	
13	課題3　作図・要点記述
14	
15	課題4　読み取り・エスキスプロセス
16	
17	課題4　作図・要点記述
18	
19	課題5　読み取り・エスキスプロセス
20	
21	課題5　作図・要点記述
22	
23	課題6　読み取り・エスキスプロセス
24	
25	課題6　作図・要点記述
26	
27	課題7　読み取り・エスキスプロセス
28	
29	課題7　作図・要点記述
30	

評価項目/割合		評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA(計画)							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	1
学習目的	一級建築士建築計画の範囲を学び、建築計画の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の建築計画を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の建築計画の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年1級建築士学科新体系テキスト計画、カラー版図説 建築の歴史 西洋・日本・近代、コンパクト建築設計資料集成 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	1 建築士の職責・業務
2	2 建築物の環境共生
3	確認テスト①
4	3 マネジメント
5	4-2 集合住宅
6	確認テスト②
7	5 公共建築
8	5-8 公共建築の実例
9	確認テスト③
10	6-3　劇場
11	7-2　面積算定・寸法設計の概要
12	確認テスト④
13	10　積算 8　都市計画
14	9　建築史
15	確認テスト⑤

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	
	2. 授業姿 30 %	
	3. テスト 50 %	
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA(法規)							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	1
学習目的	一級建築士建築法規の範囲を学び、法規の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の法規を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の法規の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年1級建築士学科新体系テキスト法規 総合資格学院編　建設関係法令集　法令編								

週数	授業計画
1	2-6　一般構造規定
2	2-7　建築設備・その他
3	2-8　構造強度①
4	2-8　構造強度②
5	確認テスト①
6	2-9　都市区域等における制限①
7	2-9　都市区域等における制限②
8	2-9　都市区域等における制限③
9	建築協定な、雑則
10	確認テスト②
11	既存不適格建築物、用途変更
12	関係法令①
13	関係法令②
14	関係法令③
15	確認テスト③

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テスト　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA（構造）							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	1
学習目的	一級建築士建築構造の範囲を学び、一般構造の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の一般構造を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の構造の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年1級建築士学科新体系テキスト構造 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	5-1　荷重・外力
2	5-2　構造計算①
3	5-2　構造計算②
4	5-3　耐震設計
5	5-4　その他の構造計算～
6	6-1　鉄筋コンクリート構造の性質～
7	8-2-3　部材算定（柱の設計から）
8	8-4　壁式構造関係
9	7-1　鋼材の性質
10	7-2　部材の設計
11	8-1　鉄骨鉄筋コンクリート構造
12	9　木質構造
13	10　地盤と基礎構造
14	11　建築材料
15	確認テスト

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自らエ夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ 50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA（施工）							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	1
学習目的	一級建築士建築施工の範囲を学び、施工の基本を理解する。								
授業内容	一級建築士の施工を学ぶ。								
学習目標	一級建築士の施工の試験内容を学び理解する。								
使用テキスト	2022年１級建築士学科新体系テキスト施工 ※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	1　施工計画 2　工事現場管理
2	2　工事現場管理 3　地盤調査・測量
3	4　仮設工事
4	5　土工事・基礎・事業工事
5	6　鉄筋工事
6	7　型枠工事
7	8　コンクリート工事
8	9　鉄骨工事
9	10　木工事
10	11　防水・シーリング・屋根工事
11	12　左官・タイル・張り石工事
12	13　ガラス工事 14　内装・断熱工事
13	15　塗装・吹付け工事 16　外装工事
14	17　設備工事 18　改修工事
15	19　工事請負契約約款等 確認テスト

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿 30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ 50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	建築士対策ⅡA(環境設備)							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	2
学習目的	社会問題や環境問題、身の回りの課題など、テーマを自由に設定し、それらを「建築」という手段で解決に向かう一連の作業を行う。								
授業内容	基本的な作業(準備、段取り、調査、説明など)を行い、建築が解決できることは何かを追求しプレゼンテーションする。								
学習目標	今まで学んできた建築学・計画学の集大成。								
使用テキスト	※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1 2	ガイダンス:卒業制作の概要と前期作業内容の解説
3 4	エスキス:テーマ設定(調査資料、作業資料、敷地図面等による確認)
5 6	エスキス:コンセプト設定(ダイアグラム、図面、スタディも系統による確認)
7 8	エスキス:計画案の概要設定(ダイアグラム、図面、スタディ模型等による確認)
9 10	発表:取り組む課題とその計画案について発表(PC＆プロジェクターで1人5分程度)
11 12	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)
13 14	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)
15 16	エスキス:計画案設計作業(全体設定、詳細設計等具体的な内容確認)
17 18	発表:計画内容の詳細発表(PC＆プロジェクターで1人5分程度)
19 20	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)
21 22	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)
23 24	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)
25 26	エスキス:プレゼンテーション作業(最終図面、解説文、解説用図版、模型等の確認)
27 28	発表:最終発表(PC＆プロジェクターで1人5分程度)
29 30	最終成果手直し＆最終提出

評価項目/割合		評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　20 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2. 授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3. テストそ　50 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト(その他検定など)はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	JWCAD ＩＡ							学期	前　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	2
学習目的	JWCADのコマンド操作・各種設定・作図技術・印刷方法の習得								
授業内容	基本操作演習と作図課題演習に取り組む								
学習目標	基本操作とCADソフトの概要把握、作図演習を通して図面作成の流れを掴む								
使用テキスト	初めての建築CAD、建築CAD検定試験公式ガイドブック								

週数	授業計画
1 2	基本作図操作（線分・消去・矩形・中心線・複線）
3 4	基本作図操作（円・円弧・接円・接点・点）
5 6	基本作図操作（伸縮・コーナー・面取・分割）
7 8	基本作図操作（複写・移動・パラメトリック・多角形・測定）
9 10	基礎課題1（木造住宅）　図枠作成・レイヤ設定・配置図作成
11 12	基礎課題1（木造住宅）　配置図作成
13 14	基礎課題1（木造住宅）　レイヤ設定・1階平面図作成
15 16	基礎課題1（木造住宅）　1階平面図作成・2階平面図作成
17 18	基礎課題1（木造住宅）　2階平面図作成
19 20	基礎課題1（木造住宅）　建築概要作成・印刷設定、小テスト
21 22	基礎課題2（鉄筋コンクリート造）　1階平面図作成
23 24	基礎課題2（鉄筋コンクリート造）　1階平面図作成
25 26	基礎課題2（鉄筋コンクリート造）　2階平面図作成
27 28	基礎課題2（鉄筋コンクリート造）　断面図作成
29 30	基礎課題2（鉄筋コンクリート造）　断面図作成・印刷設定、小テスト

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1．課　題　50 %	作図課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。
	2．授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。
	3．テストその　20 %	小テスト
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	JWCADＩB							学期	後　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	2
学習目的	建築CAD検定２級相当の知識と作図スキルの習得								
授業内容	演習課題と実存建築物の作図演習								
学習目標	建築CAD検定２級相当の知識と作図スキルの習得								
使用テキスト	初めての建築CAD、建築CAD検定試験公式ガイドブック								

週数	授業計画
1 2	建築CAD検定２級の概要説明 演習課題1　作図準備
3 4	演習課題1　作図準備・平面図作成
5 6	演習課題1　平面図・立面図作成
7 8	演習課題1　立面図・断面図、概要作成
9 10	演習課題2　作図準備・平面図作成
11 12	演習課題2　平面図・立面図作成
13 14	演習課題2　立面図・断面図作成
15 16	中間テスト、応用演習説明
17 18	応用演習1　実存建築物図面トレース
19 20	応用演習1　実存建築物図面トレース
21 22	応用演習1　実存建築物図面トレース、各自発表
23 24	応用演習2　実存建築物図面トレース
25 26	応用演習2　実存建築物図面トレース
27 28	応用演習2　実存建築物図面トレース
29 30	応用演習2　実存建築物図面トレース、各自発表

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1. 課　題　50 %	作図演習課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。
	3. テストその　20 %	中間テスト
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	AutoCADⅡA							学期	前　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	2
学習目的	AutoCADの基本操作を学び建築図面の作図方法を理解する								
授業内容	基本操作の理解と作図演習を通して図面作成に取り組む								
学習目標	基本操作の習得と木造住宅の各種図面が作成できる								
使用テキスト	AutoCADで学ぶ建築製図の基本								

週数	授業計画
1 2	基本操作（AutoCADについて、基礎知識、基本コマンド操作）
3 4	基本操作（基礎知識、基本コマンド操作）
5 6	基本操作（基礎知識、基本コマンド操作）
7 8	基本操作（基礎知識、基本コマンド操作）、小テスト
9 10	作図演習（木造住宅）　配置図及び平面図
11 12	作図演習（木造住宅）　平面図
13 14	作図演習（木造住宅）　平面図
15 16	作図演習（木造住宅）　伏図及び建築概要、図枠設定
17 18	作図演習（木造住宅）　立面図
19 20	作図演習（木造住宅）　　立面図、断面図
21 22	作図演習（木造住宅）　断面図
23 24	作図演習（木造住宅）　基礎伏図
25 26	作図演習（木造住宅）　基礎伏図・床伏図
27 28	作図演習（木造住宅）　床伏図
29 30	作図演習（木造住宅）　建築概要及び図枠設定、まとめ、小テスト

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　　50 %	作図演習課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。
	2．授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　　以上の観点から評価。
	3．テストそ　20 %	中間テスト
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	AutoCADⅡB							学期	後　期
担当教員	小林　弘二	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	2
学習目的	AutoCADの基本操作を学び建築図面の作図方法を理解する								
授業内容	作図演習と図面トレースを通して図面作成に取り組む								
学習目標	コンクリート造及び鉄骨造の各種図面が作成できる、実存建築の図面知識を学ぶ								
使用テキスト	AutoCADで学ぶ建築製図の基本								

週数	授業計画
1 2	作図演習（鉄筋コンクリート造）　平面図
3 4	作図演習（鉄筋コンクリート造）　平面図
5 6	作図演習（鉄筋コンクリート造）　立面図
7 8	作図演習（鉄筋コンクリート造）　断面図
9 10	作図演習（鉄筋コンクリート造）　建築概要・図枠設定・印刷
11 12	作図演習（鉄骨造）　平面図
13 14	作図演習（鉄骨造）　平面図
15 16	作図演習（鉄骨造）　立面図
17 18	作図演習（鉄骨造）　断面図
19 20	作図演習（鉄骨造）　建築概要・図枠設定・印刷
21 22	演習課題説明、演習課題（既存建築物図面トレース）
23 24	演習課題（既存建築物図面トレース）
25 26	演習課題（既存建築物図面トレース）
27 28	演習課題（既存建築物図面トレース）
29 30	課題発表、講評

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　50 %	作図演習課題の完成度・正確性・丁寧さを評価する。
	2．授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻がないか　②受講マナーが良好か　③クラスの授業に協力的か、④授業中に良く聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　⑤忘れ物をしない　以上の観点から評価。
	3．テストその　20 %	中間テスト
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合があります。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築図学ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	建築のパースを理解し作図出来る								
授業内容	設計途中においてもっとも重要となるイメージパースを理解し、クライアントの要望を「絵」として具体的に表現する方法を学ぶ。								
学習目標	建築パースの役割を意義を説明できる。1消点（グリッド法）図法を使ってパースを描ける。2消点（グリッド法）図法を使ってパースを描ける。図面を使って室内のフリーハンドイメージパースを描ける。内観パースに着色し、カラーパースとして完成させる。								
使用テキスト	新しいインテリアデザインの実技、だれでもできる超簡単建築パース								

週数	授業計画
1	1　遠近法の話
2	2－1　簡単パースの話
3	2－3　簡単パースの話
4	2－4　簡単パースの話
5	2－5　簡単パースの話
6	2－6　簡単パースの話
7	2－7　簡単パースの話
8	2－8　簡単パースの話
9	2－9　簡単パースの話
10	3-1　パースを彩る話
11	3-2　パースを彩る話
12	3-3　パースを彩る話
13	3-4　パースを彩る話
14	4-1　投影図の話
15	4-2　投影図の話

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2．授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3．テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	建築図学ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	建築の作図からパースを起こしプレゼンテーションができる								
授業内容	インテリアデザインの実技、製図、パース、模型、プレゼンテーション。								
学習目標	建築図学ＩＡからより深くインテリアの焦点を当ててパース作図を中心にプレゼンテーションができるようになる。								
使用テキスト	新しいインテリアデザインの実技、だれでもできる超簡単建築パース								

週数	授業計画
1	1　インテリアデザインの実技、製図の説明
2	2－2　インテリア要素の製図（置き家具）
3	2－2　インテリア要素の製図（造作家具）
4	2－3　インテリア空間の製図（平面図）
5	2－3　インテリア空間の製図（断面図）
6	2－3　インテリア空間の製図（展開図）
7	2－3　インテリア空間の製図（天井伏図）
8	3－2　アイソメ、アクソメ復習
9	3－3　一点透視図復習
10	3－3　二点透視図復習
11	4－2　インテリア模型のつくり方①
12	4－2　インテリア模型のつくり方②
13	4－2　インテリア模型のつくり方③
14	プレゼンテーション①
15	プレゼンテーション②

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2．授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3．テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	専攻ゼミⅡA							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	2
学習目的	設計段階でインフィルとスケルトンを意識できるようになる。								
授業内容	エスキス、模型作成、図面作成、プレゼンテーション。								
学習目標	時代の変化に対応出来るようリフォーム、リノベーション設計を学び概要を説明できる。								
使用テキスト	※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	ガイダンス、課題の説明（木造）、グループ決め
2	役割分担、コンセプト作成、エスキス制作
3	エスキス完成、模型製作開始
4	模型作成
5	模型作成
6	
7	プレゼンテーション資料作成
8	プレゼンテーション、講評
9	ガイダンス、課題の説明（RC造）
10	課題分析、資料集め
11	エスキス（構造の確認、コンセプト設定）
12	エスキス（ラフ図面）
13	エスキス（ラフ図面）、ラフ図面提出、コンセプトの教員確認
14	ラフ図面・コンセプトの修正
15	図面作成　タイトル・コンセプト
16	図面作成　平面図
17	図面作成　内観パース　構図検討
18	図面作成　内観パース①　下書き
19	図面作成　内観パース①　ペン入れ
20	図面作成　内観パース①　着色
21	模型作成　部材枠取り
22	模型作成　部材切抜
23	模型作成　部材組合せ
24	模型作成　細部作成
25	模型作成　部分修正
26	模型作成　仕上げ
27	プレゼンテーション資料作成
28	課題発表シミュレーション
29	発表と講評
30	

評価項目/割合		評　価　内　容
評価基準	1．課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2．授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3．テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	専攻ゼミⅡＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必	単位数	2
学習目的	前期の授業の学習内容を踏まえ、後期の授業では実際の木造住宅のリフォーム設計を行いリフォームについて学んでいく。								
授業内容	数多くの情報を収集し必要な情報のみを分析しオリジナルのプランニングにまとめる								
学習目標	プランニング・デザイン・コンセプトをプレゼンテーションできる								
使用テキスト	※適宜プリント配布								

週数	授業計画
1	ガイダンス、課題の説明（木造）、グループ決め
2	役割分担、コンセプト作成、エスキス制作
3	エスキス完成、模型製作開始
4	模型作成
5	模型作成
6	
7	プレゼンテーション資料作成
8	プレゼンテーション、講評
9	ガイダンス、課題の説明（RC造）
10	課題分析、資料集め
11	エスキス（構造の確認、コンセプト設定）
12	エスキス（ラフ図面）
13	エスキス（ラフ図面）、ラフ図面提出、コンセプトの教員確認
14	ラフ図面・コンセプトの修正
15	図面作成　タイトル・コンセプト
16	図面作成　平面図
17	図面作成　内観パース　構図検討
18	図面作成　内観パース①　下書き
19	図面作成　内観パース①　ペン入れ
20	図面作成　内観パース①　着色
21	模型作成　部材枠取り
22	模型作成　部材切抜
23	模型作成　部材組合せ
24	模型作成　細部作成
25	模型作成　部分修正
26	模型作成　仕上げ
27	プレゼンテーション資料作成
28	課題発表シミュレーション
29	発表と講評
30	

評価項目/割合		評　価　内　容
評価基準	1．課　題　70 %	授業中の課題、授業後課題の内容と取組状況
	2．授業姿　30 %	①欠席や遅刻はないか、②私語がなく受講マナーは良好か、③授業中によく聞き、メモ、質問、発言など自ら工夫し積極的に授業に参加しているか　④忘れ物をしていない、以上の観点から評価
	3．テストそ　0 %	確認テスト、期末テストより評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施		

建築デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	BIMⅠA							学期	後　期
担当教員	熊谷　猛	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	BIM（buildeing information modeling）と建築ビジュアライゼーションの習得								
授業内容	Archicad及びTwinmotionの基本操作の講義と実習								
学習目標	Archicad及びTwinmotionの基本操作の習得・BIMデータの作成と図面化・CGパース（静止画及び動画）の作成								
使用テキスト									

週数	授業計画
1 2	・BIM概説 ・Archicad概説
3 4	・基本操作の説明と実習 ・デザインツールの説明と実習①「壁・柱・梁」
5 6	・デザインツールの説明と実習②「床・屋根・メッシュ」
7 8	・デザインツールの説明と実習③「階段・窓・ドア」
9 10	・ドキュメンテーションの説明と実習「線・寸法・立面図・断面図・展開図」
11 12	・モデリング実習①（建物Aの作成）
13 14	・ドキュメンテーション実習①（建物Aの図面化）
15 16	・属性設定の説明と実習
17 18	・モデリング実習①（建物Bの作成）
19 20	・ドキュメンテーション実習②（建物Bの図面化）
21 22	・建築ビジュアライゼーション概説 ・Archicadレンダリング機能概説 ・Twinmotion概説
23 24	・Archicadレンダリング実習
25 26	・Twinmotion実習①（シーン及び静止画作成）
27 28	・Twinmotion実習②（動画作成）
29 30	・Twinmotion実習③（VR）

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	
	2. 授業姿勢　30 %	
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	3DCAD ＩＡ							学期	前　期
担当教員	熊谷　猛	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	1
学習目的	3DCADを用いた3次元デザインの基礎の習得								
授業内容	Rhinoceros(3DCAD)の基本操作の講義と実習								
学習目標	Rhinocerosの基本操作の習得・3Dモデリングと図面作成・パラメトリックデザインの理解								
使用テキスト	「建築設計者のためのRhinoceros」								

週数	授業計画
1	・3DCAD及びRhinoceros概説 ・モデリング体験（イスAの作成）
2	・基本操作の説明と実習 ・各種オブジェクトの作成
3	・オブジェクトの編集
4	・レイヤー操作とマテリアルの編集 ・グループとブロックの作成
5	・モデリング実習①（イスBの作成）
6	・図面化の概説 ・図面化実習①
7	・テクスチャ作成の概説と実習
8	・モデリング実習②（インテリアデザインA）
9	・図面化実習②
10	・モデリング実習③-1（建物A）
11	・モデリング実習③-2（建物A）
12	・図面化実習③
13	・パラメトリックデザインとビジュアルプログラミング及びGrasshoppeer概説 ・基本操作の説明と実習
14	・ビジュアルプログラミング実習①（イスC）
15	・ビジュアルプログラミング実習①（建物B）

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	
	2. 授業姿勢　30 %	
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	BIMⅡA							学期	前　期
担当教員	熊谷　猛	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	BIMの実務（基本設計）への活用技術の習得								
授業内容	Archicadを活用した基本設計の実習								
学習目標	Archicadを用いた基本設計図の作成								
使用テキスト									

週数	授業計画
1 2	・基本設計の説明 ・BIMを用いた基本設計フローの説明 ・建物C（小規模RC住宅）の説明
3 4	・実習（環境設定，敷地及び周辺環境入力，通り心，ゾーン）
5 6	・建物の各部位の構成の説明 ・実習（壁，床，屋根）
7 8	・実習（窓，ドア，階段，造作材，設備機器，その他）
9 10	・実習（図面化）※配置図・平面図・立面図・断面図 ・まとめ
11 12	・一覧表の説明 ・一覧表実習
13 14	・建物D（小規模木造住宅）の説明 ・実習（環境設定，敷地及び周辺環境入力，通り心，ゾーン）
15 16	・実習（壁，床，屋根）
17 18	・実習（窓，ドア，階段，造作材，設備機器，その他）
19 20	・実習（図面化）※仕上表・配置図・平面図・立面図・断面図，設備機器表 ・まとめ
21 22	・建物E（中規模鉄骨造オフィスビル）の説明 ・実習（環境設定，敷地及び周辺環境入力，通り心，ゾーン）
23 24	・実習（壁，カーテンウォール，床，屋根）
25 26	・実習（窓，ドア，階段，造作材，設備機器，その他）
27 28	・実習（図面化）※仕上表・配置図・平面図・立面図・断面図，設備機器表
29 30	・実習（ビジュアライゼーション） ・まとめ

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1．課　題　70 %	
	2．授業姿勢　30 %	
	3．テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	BIMⅡB							学期	後　期
担当教員	熊谷　猛	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	選択必修	単位数	2
学習目的	BIMの実務（実施設計）への活用技術の習得								
授業内容	Archicadを活用した実施設計の実習								
学習目標	Archicadを用いた実施設計図の作成								
使用テキスト									

週数	授業計画
1 2	・実施設計の説明 ・BIMを用いた実施設計フローの説明 ・建物C（小規模RC住宅）の確認 ※前期と同一データ ・仕上表作成
3 4	・矩形図説明 ・実習（矩形図作成）
5 6	・平面詳細図の説明 ・実習（平面詳細図作成）
7 8	・3Dドキュメントの説明 ・実習（照明設備入力，天井伏図作成）
9 10	・展開図ツールの説明 ・実習（展開図作成）
11 12	・構造図説明 ・実習（構造図作成）
13 14	・設備図説明 ・実習（設備図作成） ・まとめ
15 16	・建物F（中規模RC造マンション）の説明 ・実習（環境設定，敷地及び周辺環境入力，通り心，ゾーン）
17 18	・ホットリンク説明 ・実習（モデリング①）
19 20	・実習（モデリング②）
21 22	・実習（モデリング③）
23 24	・実習（図面化①） ※基本図（仕上表・配置図・平面図・立面図・断面図）
25 26	・実習（図面化②） ※詳細図（矩形図，平面詳細図，天井伏図，構造図，設備図，設備機器表）
27 28	・実習（図面化③）
29 30	・実習（ビジュアライゼーション） ・まとめ

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	
	2. 授業姿勢　30 %	
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	インターンシップＩＡ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	実習・実技	分類	必修	単位数	1
学習目的	企業での体験実習を通して実践的な技術や就業に必要なコミュニケーションを身につける。								
授業内容	企業で通年で45時間以上の就業体験を行い、レポート提出と発表を行う。								
学習目標	就業体験を通して、業界理解を深め就職活動に役立てる。また実習を通して自主性・主体性・ビジネスマナーを習								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	実習現場にて個々のスケジュールに合わせる（毎週指定曜日）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	インターンシップに参加する。事後レポート・発表。
	2. 授業姿勢　30 %	無欠席での参加。身だしなみ・挨拶等実習先評価。
	3. テストそ　0 %	実習先評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	夏季休暇中を想定。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	インターンシップⅡA							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	実習・実技	分類	必修	単位数	1
学習目的	企業での体験実習を通して実践的な技術や就業に必要なコミュニケーションを身につける。								
授業内容	企業で通年で45時間以上の就業体験を行い、レポート提出と発表を行う。								
学習目標	就業体験を通して、業界理解を深め就職活動に役立てる。また実習を通して自主性・主体性・ビジネスマナーを習								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	実習現場にて個々のスケジュールに合わせる（毎週指定曜日）
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	インターンシップに参加する。事後レポート・発表。
	2. 授業姿勢　30 %	無欠席での参加。身だしなみ・挨拶等実習先評価。
	3. テストそ　0 %	実習先評価
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その	夏季休暇中を想定。	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	課題解決学習ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	まちづくりを考える								
授業内容	実践を交えてより深く考えていく								
学習目標	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	射水市内空き家調査、ヒアリング、現場調査、まとめ
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	課題解決学習ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	まちづくりを考える								
授業内容	実践を交えてより深く考えていく								
学習目標	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	射水市内ヒアリング、プランニング、プレゼンテーション
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	課題解決学習ⅡＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	まちづくりを考える								
授業内容	実践を交えてより深く考えていく								
学習目標	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	空き家活用方法について考える。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	課題解決学習ⅡB							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	まちづくりを考える								
授業内容	実践を交えてより深く考えていく								
学習目標	地域の関係企業と連携し建築・測量現場においての課題調査、研究、提案を行う								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	今までの成果をまとめプレゼンテーションする
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　*課程を選択してください（DELで消去）*　　1　　年

科 目 名	表現力ＩＡ							学期	前　　期
担当教員	長谷川万葉	科目区分	一般	授業方法	演習	分類		単位数	1
学習目的	学習を通して、相手に伝わる表現力を養う。人前で堂々と発表できるようになる。人と対話できるようになる。								
授業内容	歌唱、ダンス、演劇、といった様々な表現を楽しく学ぶ。ストレッチ、呼吸、滑舌、発声等、基礎から実践的に学習し、最終的には発表を目指す。								
学習目標	学習を通して、明るい表情、正しい姿勢、相手に伝わる声、開かれた心など、接客やビジネスにもつながる健やかな心と体をつくる。他者との関わりの中でコミュニケーション能力を高める。自由な発想力や表現力、人前で堂々と発表できるような素地をつくる。								
使用テキスト	オリジナルテキスト、楽譜等(授業内容に合わせて、適宜配布。)								

週数	授業計画
1	イントロダクション～自己紹介、授業内容の説明。
2	シアターゲームとコミュニケーショントレーニング
3	ダンス① 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。
4	ダンス② 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。
5	ダンス③ 身体表現のひとつであり、既成のスタイルやテクニックのないコンテンポラリーダンスを学ぶ。言葉のいらない表現の世界、体を使ったコミュニケーションを体感する。
6	演劇① 演劇で遊ぶ。インプロ（即興演劇）やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。
7	演劇② 演劇で遊ぶ。インプロ（即興演劇）やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。
8	演劇③ 演劇で遊ぶ。インプロ（即興演劇）やシアターゲームを体験する。相手に伝わる表現を学ぶ。
9	中間発表
10	ソング① 歌と音楽を楽しむ。声の表現を学ぶ。
11	ソング② 歌と音楽を楽しむ。声の表現を学ぶ。
12	対話① 対話を学ぶ。他者と関わる。
13	対話② 対話を学ぶ。他者と関わる。
14	グループ発表
15	発表

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　30 %	実技課題への積極的な取り組み、課題提出状況。
	2. 授業姿勢　30 %	①欠席・遅刻　②挨拶・受講態度　③前向きに挑戦する姿勢　④授業への積極的、協力的な参加　⑤忘れ物がないか 以上の観点から評価する。
	3. テストその　40 %	個人発表、グループ発表等。発表の出来、そこに至るまでの過程、取り組み姿勢を総合的に判断する。
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他	授業の進捗度・理解度等により、授業実施順番、内容を変更する場合あり。	

建築・デザイン 学科　　1　　年

科 目 名	NIB　ＩＡ							学期	前　　期
担当教員	長谷川　万葉　木村　聡　黒田　哲也	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	メディアに対する知識理解を深め、情報を読み取る力を高める。地域社会の課題を学ぶとともに、読解力、思考力、プレゼンテーション能力、グループ討議力や社会性、創造性、国際性を身につける。								
授業内容	新聞記事からテーマを抽出し、書かれている内容をもとに自分の考えを深め、文章にまとめて発表する								
学習目標	自分の考えを整理し、わかりやすく伝えることが出来る。言葉や文章で簡潔に要点を伝えることができる。資料を調べたり人の意見を聞いたりし、問題発見、解決ができる。								
使用テキスト	新聞を教材として使用								

週数	授業計画
1	メディア論①メディアの特性を学び活用する
2	ﾒﾃﾞｨｱ論②新聞の読み方。グループスクラップ
3	ﾒﾃﾞｨｱ論③文章の要約、見出し付けで読解力アップ
4	ﾒﾃﾞｨｱ論④文章力アップ、小論文の書き方
5	ご当地検定に挑戦
6	地域の課題を学び　意見交換、発表①
7	地域の課題を学び　意見交換、発表②
8	地域の課題を学び　意見交換、発表③
9	地域の課題を学び　意見交換、発表④
10	ミニ新聞を作ろう
11	18歳選挙権を考える
12	若者の投票率を考える
13	1分間スピーチ、ミニディベート
14	グループディスカッション
15	グループ単位によるプレゼンテーション

	評価項目/割合	評　価　内　容
評価基準	1．課　題　　30 %	提出物
	2．授業姿勢　　30 %	出席率・積極的なコミュニケーションが出来る。
	3．テストその他　40 %	発表
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他	外部関係部署との調整により授業内容が前後することがあります	

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	キャリア支援ＩＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動で早期内定を獲得できるよう、自己分析や企業研究などの準備を進める。								
授業内容	テキストに扱われる内容を理解し、ワークシート等に取り組む。								
学習目標	1年次の終わりまでに、自己分析・企業研究を完成させ、2年次からの説明会参加や企業訪問に備える。								
使用テキスト	建築学生の「就活」完全マニュアル、適宜プリント配布。								

週数	授業計画
1	自分がどういう人か考える（自分史）
2	自己分析
3	自分がどうしたいか考える（未来史）
4	自己分析（まとめ）
5	キャリアを考える
6	建築・建設業界への就職に向けて、就活スケジュール、情報収集
7	業界研究①
8	業界研究②
9	企業研究
10	インターンシップについて
11	エントリーシート対策①
12	エントリーシート対策②
13	自己PR（プレゼン）
14	履歴書対策①
15	履歴書対策②

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　1　年

科 目 名	キャリア支援ＩＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動で早期内定を獲得できるよう、自己分析や企業研究などの準備を進める。								
授業内容	テキストに扱われる内容を理解し、ワークシート等に取り組む。								
学習目標	1年次の終わりまでに、自己分析・企業研究を完成させ、2年次からの説明会参加や企業訪問に備える。								
使用テキスト	建築学生の「就活」完全マニュアル、適宜プリント配布。								

週数	授業計画
1	インターンシップの振り返りまとめ、学生内情報交換
2	SPI適性検査について
3	面接対策①　※個別面接、グループ面接のロールプレイ
4	面接対策②　※個別面接、グループ面接のロールプレイ（模擬面接）
5	面接対策③　※個別面接、グループ面接のロールプレイ（模擬面接）
6	面接対策④　※個別面接、グループ面接のロールプレイ（模擬面接）
7	面接対策⑤　※個別面接、グループ面接のロールプレイ（模擬面接）
8	求人情報の収集①　求人サイトへの登録
9	求人情報の収集②　企業説明会への参加
10	求人情報の収集③　ハローワーク、人材派遣会社の活用
11	企業訪問の仕方
12	4月以降の企業説明会や会社訪問のスケジュールの確認
13	Bit 求人票の確認と応募の検討
14	企業概要の研究 (1) SWOT分析
15	企業概要の研究 (2) 企業理念、社史等による企業研究

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	キャリア支援ⅡＡ							学期	前　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動で早期内定を獲得できるよう、自己分析や企業研究などの準備をすすめる								
授業内容	企業説明会や会社訪問のスケジュールに基づき、業界研究や企業研究を行い、エントリーシートや履歴書の作成を								
学習目標	２年次の12月末までにクラス全員が就職内定を獲得する								
使用テキスト	適宜、資料を提供する								

週数	授業計画
1	4月以降の企業説明会や会社訪問のスケジュールの確認①
2	4月以降の企業説明会や会社訪問のスケジュールの確認②
3	Bit 求人票の確認と応募の検討
4	企業概要の研究 ①
5	企業概要の研究 ②企業理念、社史等による企業研究
6	履歴書の完成と面接対策（志望動機）
7	履歴書の完成と面接対策（自己PR）
8	履歴書の完成と面接対策（趣味特技）
9	会社訪問の手順と心構え①
10	会社訪問の手順と心構え②
11	筆記試験対策①
12	筆記試験対策②
13	面接対策①
14	面接対策②
15	面接対策③

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築・デザイン 学科　　2年課程　　2　年

科 目 名	キャリア支援ⅡＢ							学期	後　期
担当教員	伏間　崇太郎	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	就職活動で早期内定を獲得できるよう、自己分析や企業研究などの準備をすすめる								
授業内容	企業説明会や会社訪問のスケジュールに基づき、業界研究や企業研究を行い、エントリーシートや履歴書の作成を								
学習目標	２年次の12月末までにクラス全員が就職内定を獲得する								
使用テキスト	適宜、資料を提供する								

週数	授業計画
1	インターンシップの振り返り、学生間情報交換
2	個別対応
3	個別対応
4	１．１０月以降の企業説明会等のスケジュール確認 ２．各自の就職活動の立案
5	個別対応
6	個別対応
7	個別対応
8	１．１１月以降の企業説明会等のスケジュール確認 ２．各自の就職活動の立案
9	個別対応
10	個別対応
11	個別対応
12	１．１２月以降の企業説明会等のスケジュール確認 ２．各自の就職活動の浸食状況の確認（個別対応）
13	内定獲得後の在留資格変更申請手続き
14	個別対応
15	個別対応

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　70 %	実習先からの評価をもとに算出
	2. 授業姿勢　30 %	出席率などから算出
	3. テストそ　0 %	
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その		

建築デザイン 学科　　1　　年

科 目 名	データマーケティングＩA							学期	前　　期
担当教員	清水　大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータの取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身につけ、データマーケターとしての基礎的素養を深める。								
授業内容	ビッグデータの分析や活用方法をPOSデータやドルフィンアイ、RESASなどを用いて学ぶ。								
学習目標	マーケティングの基礎知識を習得し、専門用語が理解できる。基本的手法や技法を、具体的事例に当て嵌めて考えることができる。								
使用テキスト	データマーケター養成講座　初級編								

週数	授業計画
1	オリエンテーション ・講座の進め方と受講の心構えについて ・講座の目的とゴール（販売業を機軸にDMの基本を学ぶ） ・用語の説明 ・データマーケターとは
2	ビッグデータとは ・ビッグデータとは ・ビッグデータの利用・背景・活用 ・小売業を取り巻く環境の変化
3	データ活用 ・データ活用のステップ ・データの種類（自社データ・公的データ・民間データ） ・データから何が読み取れるか？データの見方の視点 ・RESAS、ウレコンの使い方
4	エクセルハンズオン①　グラフの作成 ・データマーケティングに必要なEXCEL操作（グラフ作成） ・グラフの種類とそれぞれの使い方を知る ・〈PW〉ウレコンの表を選びグラフが何を示しているかをパートナーに説明する。
5	実習 ① ・〈ワーク&GW〉ウレコン、ドルフィンアイを使用する。 ドルフィンアイから、データをダウンロードする。 折れ線グラフを作成し、その折れ線グラフから読み取れることをグループで協議、共有して全体に発表する
6	エクセルハンズオン②　散布図と相関 ・散布図の作り方　・相関係数の意味　・相関と因果 ・〈ワーク〉ドルフィンアイからダウンロードしたデータで相関係数を出して、2つの事項に相関があるか判断する
7	企画提案のための思考法 ・利用者への共感から問題の理解 ・問題解決のためのアイディア出し（ブレインストーミング） ・試作品の提出とフィードバックの収集
8	データ活用と各業界 ・データの利用といろいろな業界を紹介する。 ・小売をベースに講座が進行しているが、その他の業界でもデータ活用がこれからのマーケティングの基礎になることを知る。 ・フィールドワーク（宿題）の説明
9	POSデータ ① ・POSデータとはなにか　・POSデータ分析の重要性　・〈ワーク〉ロコミサイトとPOSデータ ・POSデータの分析の方法と準備
10	POSデータ ② ・POSデータの比較 ・POSデーから見えること① ・〈PW〉POSデータのサンプルからどの数字に注目するか？
11	POSデータ ③ ・POSデータから見えること② ・〈PW〉折れ線グラフから何が読み取れるか？ ・売上げと価格
12	フィールドワークの発表 ・事前に課題として与えておいた近所のドラッグストアやスーパーの調査（どんなものが売っているか？どんな売り場構成をしているか？競合店舗はあるか？など）を発表する。
13	実習 ② ・〈GW〉サンプルデータを分析してグラフ作り、売れ行きのよいカテゴリはなにかを見つける。グループ内で協議・共有して、そのカテゴリを見つけたポイントや特徴はなにかを発表する。
14	実習 ③ ・〈GW〉サンプルデータを分析して売り場に何を置いたらよいかを選定し、全体に発表する。他グループの差を見つけ、選定方法や方針の違いについてディスカッションを行なう。
15	実習 ③ ・〈GW〉サンプルデータを分析して売り場に何を置いたらよいかを選定し、全体に発表する。他グループの差を見つけ、選定方法や方針の違いについてディスカッションを行なう。

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	１．課 題　30 %	ワークシート等の状況を評価する。 レポート等の状況を評価する。
	２．授業姿勢　30 %	出席状況、発言の積極性 、授業に取り組む姿勢、 締め切りの厳守を評価する。
	３．テストその他　40 %	プレゼン 発表での評価、グループワークでの協力度 各章ごとの確認テスト及び 期末試験
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他		

建築デザイン 学科　　1　　年

科 目 名	データマーケティングＩB							学期	後　　期
担当教員	清水　大樹	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	マーケティングの基本的な理論や手法を学び、マーケティングに関する体系的な理解を促し、マーケティングを進める上で必要なデータの取り扱いに関する知識・技能と観点を演習によって身につけ、データマーケターとしての基礎的素養を深める。								
授業内容	データマーケティングの基礎をおさえ、ドルフィンアイ等のビッグデータを活用し、データの分析を行う。								
学習目標	マーケティングにおけるデータの取り扱いについて学び、実際の事例やデータを題材にして、仮設を立て分析することができる。								
使用テキスト	データマーケター養成講座　初級編								

週数	授業計画
1	マーケティングの基礎① ・マーケティングとはなにか ・マーケティング1.0~4.0 ・マーケティングの4P
2	ID-POSデータ ① ・ID-POSデータとはなにか ・POSデータとID-POSデータの違い ・ID-POSデータから見えること①
3	ID-POSデータ ② ・売上げを構成する要素（因数分解）① ・〈ワーク〉売上げ分解ツリーを作ってみよう
4	ID-POSデータ ③ ・購入率とリピート率 ・売れ続ける商品
5	マーケティングの基礎② ・これからのマーケティング
6	ID-POSデータ ④ ・併売とはなにか（考え方の基礎） ・リフト値 ・〈ワーク〉リフト値を求めてみよう
7	実習 ④ ・〈ワーク&GW〉RESASに触れてみる。ドルフィンアイを駆使してテーマに沿ったデータを探し、仮説をたて、グループとして発表する。
8	外部データの利用 ① ・外部データとはなにか ・気象データの利用
9	外部データの利用 ② ・〈ワーク&GW〉サンプルデータから商品を確定し、どうしてその商品に決めたのかを協議・発表する。 ・ウェザーマーチャンタイジング ・商品前線
10	実習 ⑤ ・〈ワーク&GW〉外部データを利用した売り出し時期の選定
11	マーケティングの基礎③ ・代表値について(平均・中央値・最頻値) ・（GW）ペルソナを作ってみる
12	課題発見と提案 ① ・〈ワーク&GW〉与えられたデータを分析し、ペルソナを作成して課題を解決する。
13	課題発見と提案 ② ・〈GW〉分析のまとめを行い、発表準備にとりかかる（発表用の模造紙作成とグループ内での発表の予行演習）
14	課題発見と提案 ③ ・〈GW〉発表とその発表に対するコメント
15	課題発見と提案 ③ ・〈GW〉発表とその発表に対するコメント

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	１．課 題　30 %	ワークシート等の状況を評価する。 レポート等の状況を評価する。
	２．授業姿勢　30 %	出席状況、発言の積極性 、授業に取り組む姿勢、 締め切りの厳守を評価する。
	３．テストその他　40 %	プレゼン 発表での評価、グループワークでの協力度 各章ごとの確認テスト及び 期末試験
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他		

建築デザイン 学科　　2　　年

科 目 名	データマーケティングⅡA							学期	前　　期
担当教員	清水・松島	科目区分	一般	授業方法	演習	分類	自由選択	単位数	1
学習目的	地域の課題や企業ニーズを踏まえて、学生のアイデア発想を実際のビジネスに実装できる								
授業内容	最新のビッグデータを活用した「データマーケティング実践教育」を学生が経験する								
学習目標	提案プランについて企業からのフィードバックをいただき、自分たちの活動を振り返ることにより、データマーケティングに関する認識の向上を図る 学生が、True Dataの生活者ビッグデータと地域の小売業店舗のデータマーケティングを活用し、地域に住みながら、健康な暮らしを楽しめる生活環境づくりをプランニングする								
使用テキスト									

週数	授業計画
1	オリエンテーション 顧客理解について
2	射水市クラスター読み込み説明 射水市クラスタの読み込み演習
3	射水市クラスタの読み込み 【GW】演習　発表資料の作成
4	射水市クラスタの読み込み 【GW】演習　発表資料の作成
5	射水市クラスタの読み込み 【GW】演習　発表資料の作成
6	射水市クラスタの読み込み 【GW】演習　発表
7	射水市クラスタの読み込み 【GW】演習　発表
8	【FW】店舗視察
9	データ提供の企業概要 企業課題やテーマ 自社にて保有しているデータと実活用の実態について 具体的な販促手段や販促の考え方
10	課題解決方法の整理の仕方、使用するフレームワークの説明 1.企業課題と生活者課題を踏まえる事について 2.カスタマージャーニーマップ作成 3.5W1Hで具体的な施策に落とし込む
11	【GW】 課題解決方法の立案の仕方について 活用するデータ（射水市クラスタ、企業データ）の説明 ５W1Hを活用した立案方法についての説明
12	【GW】 課題解決方法の立案の仕方について 活用するデータ（射水市クラスタ、企業データ）の説明 ５W1Hを活用した立案方法についての説明
13	【GW】 課題解決方法の立案の仕方について 活用するデータ（射水市クラスタ、企業データ）の説明 ５W1Hを活用した立案方法についての説明
14	企業課題やテーマについて 【GW】演習　発表
15	企業課題やテーマについて 【GW】演習　発表

	評価項目/割合		評 価 内 容
評価基準	１．課 題	30 %	ワークシート等の状況を評価する。 レポート等の状況を評価する。
	２．授業姿勢	30 %	出席状況、発言の積極性 、授業に取り組む姿勢、 締め切りの厳守を評価する。
	３．テストその他	40 %	プレゼン 発表での評価、グループワークでの協力度
	課題･テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。		
目標検定・課外授業実施予定・その他			

建築・デザイン 学科　　*コースを選択してください（DELで消去）**　　2　年

科 目 名	ICT演習ⅡA							学期	前　期
担当教員	非常勤	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	企業においてITを利活用する実践的な知識・スキルを学習する。								
授業内容	企業において必須の技術である表計算ソフト、エクセルを用いて実践的な資料を作成する技術を身につける。								
学習目標	エクセルを使用して、データ作成・グラフ作成・簡単な関数を用いた計算ができる。								
使用テキスト	全学科：30時間でマスター Excel2013（Windows8対応）インターナショナルを除く学科：日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト＆問題集 Microsoft Excel 2013対応 日商								

週数	授業計画
1	第1章Excelの基礎知識
2	第2章Excel入門
3	第3章ワークシートの活用（1）
4	第3章ワークシートの活用（1）
5	第3章ワークシートの活用（1）
6	第4章ワークシートの活用（2） セルの絶対参照
7	第4章ワークシートの活用（2） セルの絶対参照
8	第4章ワークシートの活用（2） 端数処理
9	第4章ワークシートの活用（2） 端数処理
10	第4章ワークシートの活用（2） IF関数
11	第4章ワークシートの活用（2） IF関数
12	第5章グラフ（1）
13	第5章グラフ（2）複合グラフ
14	第7章データベース オートフィルタ・並べ替え
15	前期確認テスト

	評価項目/割合		評 価 内 容
評価基準	1. 課　題	40 %	各授業における課題提出（期限厳守） 確認テスト結果
	2. 授業姿勢	30 %	授業への積極参加 クラスへの協力度 教科書、パソコンその他忘れ物の有無
	3. テストその	30 %	検定を受験する学科は検定結果 受験しない学科はテスト結果
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。		
目標検定・課外授業実施予定・その他	日商PC検定データ活用3級		

建築・デザイン 学科　　*コースを選択してください（DELで消去）**　　2　年

科 目 名	ICT演習ⅡB							学期	後　期
担当教員	非常勤	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	企業においてITを利活用する実践的な知識・スキルを学習する。								
授業内容	企業において必須の技術である表計算ソフト、エクセルを用いて実践的な資料を作成する技術を身につける。								
学習目標	エクセルを使用して、データ作成・グラフ作成・簡単な関数を用いた計算ができる。								
使用テキスト	全学科：30時間でマスター Excel2013（Windows8対応）インターナショナルを除く学科：日商PC検定試験 データ活用 3級 公式テキスト＆問題集 Microsoft Excel 2013対応 日商								

週数	授業計画
1	前期範囲の復習
2	日商PC検定3級の概要・演習問題
3	日商PC検定3級の概要・演習問題
4	日商PC検定3級の概要・演習問題
5	日商PC検定3級の概要・演習問題
6	日商PC検定3級の概要・演習問題
7	日商PC検定3級の概要・演習問題
8	日商PC検定3級受験
9	第7章データベース ※ピボットテーブル追加
10	第8章Excelの応用 VLOOKUP・HLOOKUP・INDEX
11	第8章Excelの応用 データベース関数・条件付き集計
12	日商PC検定3級対策
13	日商PC検定3級対策
14	日商PC検定3級対策
15	日商PC検定3級対策

	評価項目/割合		評 価 内 容
評価基準	1. 課　題	40 %	各授業における課題提出（期限厳守） 確認テスト結果
	2. 授業姿勢	30 %	授業への積極参加 クラスへの協力度 教科書、パソコンその他忘れ物の有無
	3. テストその	30 %	検定を受験する学科は検定結果 受験しない学科はテスト結果
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。		
目標検定・課外授業実施予定・その他	日商PC検定データ活用3級		

建築・デザイン 学科　　**コースを選択してください（DELで消去）**　　2　年

科 目 名	ICT活用ⅡA							学期	前　期
担当教員	非常勤	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	企画提案をはじめとする伝達能力全般の向上を目的とする								
授業内容	VRシステムを使用し新たなプレゼン技法を身に付ける								
学習目標	グループ作成をとおして課題解決力、コミュニケーション力向上を目指す								
使用テキスト	unityでつくる建築VR入門								

週数	授業計画
1	unityの導入
2	unityとは
3	unityの動作環境
4	unityhubインストール
5	unityの軌道とプロジェクトの作成
6	VRの基礎知識
7	unityについて
8	シーンビューの視点操作
9	オブジェクトの操作
10	スクリプトの操作
11	簡単なゲーム作成
12	簡単なゲーム作成
13	グループ作成
14	グループ作成
15	作成物発表

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　30 %	課題レポートの提出
	2. 授業姿勢　30 %	積極的に授業に取り組む姿勢
	3. テストその他　40 %	修了試験
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他		

建築・デザイン 学科　　**コースを選択してください（DELで消去）**　　2　年

科 目 名	ICT活用ⅡB							学期	後　期
担当教員	非常勤	科目区分	専門	授業方法	演習	分類	必修	単位数	1
学習目的	企画提案をはじめとする伝達能力全般の向上を目的とする								
授業内容	VRシステムを使用し新たなプレゼン技法を身に付ける								
学習目標	グループ作成をとおして課題解決力、コミュニケーション力向上を目指す								
使用テキスト	unityでつくる建築VR入門								

週数	授業計画
1	オブジェクトを作成する
2	単色のマテリアルを作成する
3	画像からマテリアルを作成する
4	ガラスのマテリアルを作成する
5	鏡のマテリアルを作成する
6	オブジェクトを作成するを作成する
7	ポイントライトを作成する
8	スポットライトを作成する
9	エリアライトを作成する
10	発光するオブジェクトを作成する
11	ライトプローブを使用する
12	グループ作成
13	グループ作成
14	グループ作成
15	作成物発表

	評価項目/割合	評 価 内 容
評価基準	1. 課　題　30 %	課題レポートの提出
	2. 授業姿勢　30 %	積極的に授業に取り組む姿勢
	3. テストその他　40 %	修了試験
	課題・テスト（その他検定など）はそれぞれ20%以上とし、授業姿勢は30%とする。	
目標検定・課外授業実施予定・その他		